



forgotten silver

コリン・マッケンジー もうひとりのグリフィス

ピーター・ジャクソン、コスタ・ボートス監督



mockery

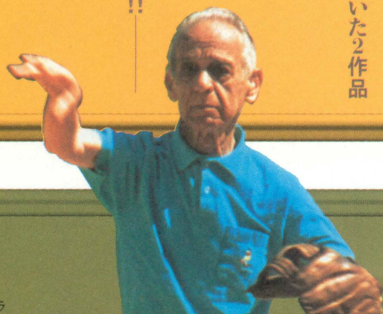
- 1.あざけり、ひやかし、あざ笑い、からかい、冷笑、侮蔑、軽侮、軽蔑、軽視、無視
- 2.あざけりの言葉(行為)、嘲笑的な行為(言葉、まね)、軽侮(無視)の行動
- 3.あざけりの的、笑いのもの、もの笑いの種、嘲笑的、冷笑の的、なぶりもの、笑いくさ
- 4.(へたな) 模倣、まね、(形式的な/ふかつこうな)、まねごと、まるで不適当な(さまにならない)もの
- 5.徒勞、お笑い、むだ骨折り、骨折り損、無駄な努力、無駄、むなしいこと・もの、幻滅



ソクラテスもマルクス、キリストも脱帽!!
マンハッタンから頑固ジジイがやって来る!!

『知ったこっちゃない』

真実へ至る道
それは一つとは限らない



人間劇場!?

ドキュメンタリーの限界に危うく挑む謎めいた2作品

モキュメンタリー

『コリン・マッケンジー
もうひとりのグリフィス』

黒澤明もルーカス、スピルバーグも超えていた!?
ニージーランドの密林に眠っていた
巨大スヘクタクル・セット!!



配給バンドラ



nobody's business

知ったこっちゃない

アラン・ベルリナー監督

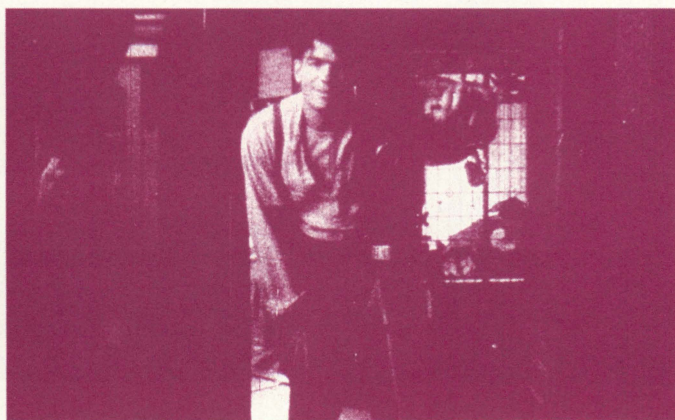


真実は事実と事実の隙間にある

ガス柳下 (特殊翻訳家)

現実とはいったいどんなものなのだろうか？ドキュメンタリーは現実を映しだす鏡である。現実からはみだしたものがフィクションとなる。そう世間では教えられている。でも、その現実とはいったいなんだろう？ 現実が何かわからないかぎり、何がドキュメンタリーで、どこからフィクションがはじまるかなどわかるわけがない。

もちろん現実とは現実でそれ以上でもそれ以下でもない。哲学者やヤク中のたわごとよろしく、客観的現実と主観的現実の対立など訴えてみても、それで事実が変わるわけではない。だが、ことがどう現実を描写するかという点になれば話は違う。リアルはひとつかもしれないが、リアリズムのかたちはひとつではない。それはものを見る方法である。人によってももの見方が違うように、リアリ



1996年「ニュージーランド」(部カラー/53分)
監督◎ピーター・ジャクソン、コスタ・ボウデス 出演◎サム・ニール、ハーヴェイ・ワインスタイン 他
後援◎ニュージーランド大使館 ニュージーランド政府観光局 協力◎ぴあ

謎の映画監督、コリン・マッケンジーを追え！

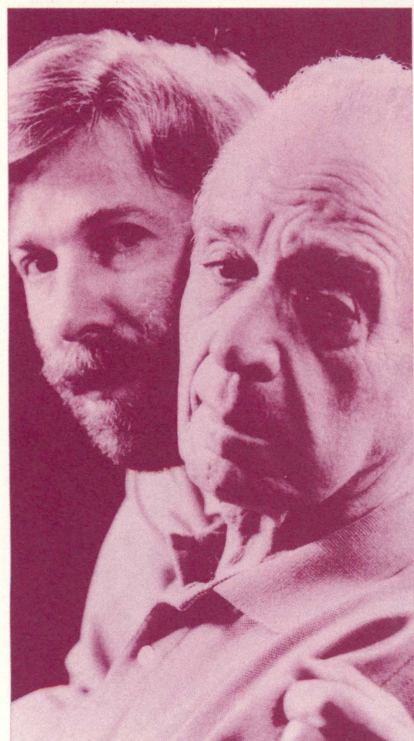
映画史を覆す大発見！ ニュージーランドの密林で発掘した巨大セット。それはコリン・マッケンジーが今世紀初頭、愛を描いた場所だった——「乙女の祈り」のピーター・ジャクソン監督はじめ、映画に魅せられた人々がコリン・マッケンジーの数奇な人生を追う。

ズムのかたちだって千差万別だ。人の数だけ現実がある——というのは陳腐な言い方かも知れないが、少なくともリアリズムのかたちはそのくらいあるはずだ。たとえばマジック・リアリズム、ガルシア＝マルケスやアレホ・カルペンティエールら中南米の幻想小説作家たちの作品群がある。マジック・リアリズムでは現実描写の中に幻想が織りこまれていく。なぜなら、かの地では現実と幻想が地続きになっており、とても現実を起こると思えないようなことが平気で起きてみせるからなのだ。そこでのリアルは我々が知っているリアルとは違う。その現実を描写するためには、新たなドキュメンタリーが発明されなければならないだろう。

だから、ドキュメンタリーは事実を映しだすものではない。それは現実を映しだすものだ。真実を映しだすものでもある。事実と真実は、まあ、ときどき一致することもある。でも、いつもではないのだ。真実を、現実そ

こまでも追及していけば、そのうちドキュメンタリーとフィクションのあいだの境目はぼやけてくるだろう。真実は往々にして事実と事実の隙間にあったりするものだから。

この二本の映画はいずれもドキュメンタリーとして構想されたものである。どちらも映画作家が自分のルーツをたどるために作りあげたものだ。『知ったこっちゃない』ではユダヤ人の個人映画作家が自分に流れる血を探ろうとし、『コリン・マッケンジー／もうひとりのグリフィス』ではニュージーランドの映画監督がニュージーランド映画史の隠れた鉅脈を掘りあてる。自分が何者かを知るためには、その掘ってきたところを知らなければならない。これは真実の自分を知るための探索なのである。その過程でちょっとばかり誇張や創作や事実の軽視や虚構が入ったから、どうだと言うのだろうか？ そんなもの、真実の前には大したことじゃないんじゃないだろうか？ この二本のドキュメンタリーは、まちがいに誰も知らなかった真実を教えてくれるだろう。



知ったこっちゃない

1997年「アメリカ」(一部モノクロ/60分)
監督◎アラン・ベルリナー
出演◎オスカー・ベルリナー 他
後援◎東京アメリカンセンター
バトルというべき、監督による自らの父親へのインタビューによって、自分自身のルーツと、頑固で勝手で小憎らしい父の姿を描いた。98年エミー賞、97年ベルリン国際映画祭・国際批評家協会賞・カリガリ賞、サンフランシスコ国際映画祭・金門賞など、あらゆる映画祭で拍手をもって迎えられた。

11/6(土)よりロード&レイトショー

11/18(木)まで

地下鉄中央線「九条駅」6番出口徒歩2分

11/6(土)～12(金) ロードショー				
コリン～	12:20	2:50	5:20	7:50
知った～	1:40	4:10	6:40	—

11/13(土)～18(木) レイトショー (各回入替制)	
コリン～	8:30
知った～	9:30 (終10:30)

特別鑑賞券1200円好評発売中!

●当日：一般1500円、大学1300円、高・中・小・シニア1000円/2回券2500円

シネ・ヌーヴォ
TEL.06-6582-1416